



# 大樹のこころ

## 教育実習生

現在、本校には3名の教育実習生が来ています。どの実習生も愛知教育大学の3年生。その3名の実習生が、研究授業を行いました。実習期間中に何度か授業を行うのですが、その中で一度は指導案を作成して授業実践することが義務付けられています。愛知教育大学からも実習生担当の准教授が来校して、3人の授業を参観されました。

一人目の実習生は1年2組で算数科のたし算の授業です。8+3=11の計算方法を子供たちに考えさせる学習でした。計算を簡単に行うために「10のまとまり」を作るようにすることに気付かせる内容でした。数図ブロックで操作活動をする中で、3を2と1に分け、最初に8に2つを加えて10のまとまりを作るという考えが子供たちから出てきました。子供の発達段階を踏まえた丁寧な授業でした。

二人目の実習生は3年4組の社会科「スーパーマーケット」の授業でした。「めざせ！未来のスーパー店長！」を課題として、スーパーマーケットの売り上げを伸ばすこと以外の「工夫」を考える授業でした。売り上げに直結しない「リサイクルボックス」「補助犬同伴の可の表示」「環境に優しい商品」「車いす専用駐車場」といったものから、子供たちは「障がいのある人も安心して買い物ができる」ことに迫っていきました。授業者の言動にメリハリの効いた授業でした。

三人目の実習生は4年1組で保健領域「育ちゆく体とわたし」の授業を行いました。この実習生は保健の先生を目指しています。思春期に入ろうしている子供たちに、体の成長を促していくために何が必要なのかを考えさせる学習でした。「食事」「休養・睡眠」「運動」の3つの観点から、自分にとって何が必要なのかを話し合いました。「成長ホルモンと睡眠のグラフ」「骨密度の写真」「骨ができる過程の紙芝居」など資料提示がとても効果的でした。

実習生の授業は、どれも「成功」と言えるものでした。その要因は、授業クラスである1の2、3の4、4の1の学習規律がしっかりとできていたことです。これは担任の先生方の日頃の指導の賜物だと思います。そしてもう一つ要因が。それは「子供たちが実習生の先生を好き」ということです。ですから授業に前向きに取り組んでくれました。こうした子供たちからの好意を、実習生も嬉しく感じたに違いありません。授業後にどの実習生も「教師になりたい」と言ってくれました。その気持ちを大切に、ぜひとも教師の道に進んでほしいと思います。「大樹寺小での教育実習が自分の進む道を決めてくれた」そんな思いを持ってくれたら、こんなに嬉しいことはありません。本校は子供たちだけでなく、若い教師も育ていける、そんな環境にあると思っています。

